



裁判員制度施行1ヵ月前の4月21日、
反対派の約1800人が、雨の銀座をデモ行進

死刑判決を下す覚悟はできたか？
4月21日、最高裁で「和歌山カレー事件」の林真須美被告の上告が棄却、死刑が確定した。同日、90年の「足利事件」で無期懲役が確定した菅家利和受刑者の、「有罪認定の決め手となったDNA型が一致していない可能性が濃厚」と報じられる。

そして、その夜、東京・銀座では裁判員制度に反対するデモが行われた。「人を裁くなんてできない」「量刑の判定も多数決。自分が無罪だと思っても、多数決で有罪になり死刑が確定し、もし冤罪だったら……」デモ参加者の反対意見は様々だ。

午後8時、さらびやかな銀座の外堀通りをデモは進む。ドレスを着込んだホステスが営業メールか、一心不乱にケータイをいじっていた。デモが通過すると、「啊、何事かと顔を上げるも、すぐに液晶画面に視線を戻した。

「裁判員制度？ ホントにやるの!?」
「なんか現実味ないよね」

現実味を帯びないことが、現実になることとしている。覚悟がある者、覚悟がでない者、覚悟をしようとならない者が入り混じる。

裁判員制度を提言した司法制度改革審議会は、01年の意見書で「国民の健全な社会常識が反映されることで、司法への理解・支持が深まると述べた。裁判員制度という、国民に課せられた義務は重い。
あなたに覚悟はありますか？

裁く覚悟は、あるか？

撮影／高橋定敬

法務省のキャラクター「サイパンインコ」に対抗し、「裁判員いないインコ」も雨中をデモ行進